

抱えていることも確かでございます。

今、子供の最大の教育環境は家庭であるとか、大人が変われば子供も変わるということをしよっちゅう耳にしますが、こうしたことは一昔前までは例えば三つ子の魂百までというふうに、口に出さなくともだれの心にもあった知恵、あるいは理念であったのではないかというふうに思います。

今、先ほどのようなことを声を大にして叫ばなければならないというのはどうしてなのでしょう。価値観が多様化したからということもできるでしょうが、変化した社会の中であるの生活はどうなるのか、社会の未来像が描かれないう、そうした不安が増して、将来の見通しに立った教育理念とは何なのかということなど、見えなくなっている、あるいは忘れかけている状況があると考えるからです。こんなときだからこそ教育の目指す方向性はどうか、教育の根本である教育基本法を補完あるいは補強する内容はないのかと見直してみることは大きな意義を感じるわけでございます。

答申で挙げられた理念に信頼される学校教育の確立が挙げられております。これは子供の個性尊重や国際化、環境問題への対応も重視するという内容も含まれており、私は納得しているものであります。また、家庭はすべての教育の出発点として家庭の教育力の回復、学校、家庭、地域の連携、協力の推進を挙げておりますが、さきに述べました観点から、現行法を補完あるいは補強する意味で理解できるものであります。

また、だれでも、いつでも、どこでも自由に学べる社会として生涯学習の理念を挙げておりますが、このことは現行法にはない極めて重要な理念であると思っております。しかし、公共の精神とか国を愛する心、あるいは伝統文化の尊重などについては個人的、主観的な営みを法律で規制するという懸念もありますし、答申が大切としたみずから学ぶ態度や自発的精神の育成

と矛盾するという論もありますから、こうした点についてはより慎重に幅広い論議を重ねなければならないことだと思っております。

ともあれ、新しい時代にふさわしい教育基本法を求め、幅広い論議が重ねられまして、よりよい合意が図られるべきで、見直しは急ぐべきものではないというふうに考えております。

以上でございます。

鈴木良雄議長 15番、藤原民夫議員。

15番 藤原民夫議員 どうもありがとうございました。体調がちょっとぐあい悪いものですから、いろいろ反論はありますが、時間もないし、別の機会に譲って質問を終わらせていただきたいと思っております。

鈴木良雄議長 ここで昼食のため、暫時休憩いたします。

再開は、午後1時といたします。

午前11時54分 休憩  
午後1時00分 再開

#### 谷口栄子議員の質問

鈴木良雄議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

順位7番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

4番 谷口栄子議員 12月定例会に通告しております3項目について質問させていただきます。市長を初め、市民課長、健康課長、福祉事務所長、建設課長、教育長のご答弁よろしくお願いたします。

初めに、このたびの新潟県中越地震で亡くなられた多くの方々はもとより、さまざまな面で

被害を受けられた皆様に対し心より深くお見舞い申し上げます。そして、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

通告しております1項目、安心・安全のまちづくりについてであります。

ことしの夏は猛暑が続きました。さらに台風が次々と日本に上陸し、被害をもたらしました。18号は山形県内を通過し、酒田方面では稲の塩害が発生し、天童市などではラ・フランス、リンゴ等の果物の落果や実に傷がつくなどの被害が出ました。

長井市では7月17日の大雨で水害が発生し、26カ所の浸水被害や公共土木関係15カ所、農林関係で13カ所の被害があり、庁舎内に災害対策本部が設置されました。四ツ谷地区でも河川（大樋川）が氾濫、床下浸水となり、地域の消防団員が出動し、土のうを積んだりポンプ車で水をくみ上げたりの作業が早朝から行われました。鈴木力夫地区長を中心に、心配した地区の方々が現場に集まって、雨の中作業をする消防団員の皆さんを見守りました。私も地域の議員として、またことしは地区の婦人部四役の一員として現場に駆けつけました。お昼は地区よりおにぎりを出してもらい、被害を受けたTさんもおにぎりとお漬物を持ってこられ、四ツ谷公民館で消防団員の皆さんに食べていただきました。夕方は災害対策本部が設置されましたので、赤十字でおにぎりが準備されました。その後、建設会社のダンプで工事用排水ポンプが取り付けられて、一度に多くの水が側溝に流し続けられ、水がだんだん少なくなりました。

10月23日、夕方5時56分、新潟県中越地震が起こり、阪神淡路大地震以来2度目の震度7を記録し、被害状況が大きく報道されました。

23日午後8時40分ころでした。西置賜行政組合鈴木武次議長より電話があり、19時20分緊急消防援助隊として消防隊1隊、救急隊2隊、出動指令が出て、20時19分松木隊長以下10名で出

動され、20時40分置賜隊113号道の駅を出発し、小国救急小隊3名と合流し、長岡市役所災害対策本部へ向かわれたとの連絡をいただきました。

25日には公明党の神崎武法代表が新潟県庁を訪れ、泉田県知事と会談し、災害対策本部の会合にも出席され、「復旧支援にしっかり取り組んでいく」と約束されて当日の政府・与党連絡会議で小泉首相に伝えられました。

中越地震の対応について、「行方不明者の早期捜索と救助に全力を上げてもらいたい」と強く求め、激甚災害の早期指定と補正予算案の編成を要請されました。

26日午後小泉首相が長岡市、小千谷市を訪問、26日付新聞で警視庁によると道路損壊は1,330カ所、がけ崩れ、山崩れは89カ所、住宅被害は全壊261棟、一部損壊2,286棟、最大時27万戸が停電し、山古志村から1,000人以上もヘリコプターで救出され、避難者は36市町村で約10万3,148人もおられたのです。避難場所は486カ所、また40集落が孤立状態で、水道10万8,000戸、ガス5万6,000戸、復旧の見通しが立たない状況です。また、地震被害は3兆円を上回る見込みと発表されております。

11月2日から11月8日までボランティアに行かれた議会事務局塚田さんの地震災害派遣レポートを見せていただきました。避難所の様子、救助物資がたくさん届けられても平等に行き渡る数がないと配布するのに苦慮している様子、救助物資も最初の段階ではありがたいのですが、徐々に物余りの状態になっている様子、救援物資でキャンピングマット（アルミ製）1人1枚ずつ配布されて、多くの人が床に毛布だけを敷いて寝ており、大変助かったこと、自衛隊による炊き出しの様子、自衛隊の設置によるふるやボランティアの方々の様子、励ましのメッセージや職員の皆さんの不眠不休の対応など、52枚の写真にまとめたものでした。

これからの災害対応に貴重な資料と思いまし

+

た。9月議会で取り上げましたが、自主防災の取り組み、災害時の高齢者の避難対応など、地区単位で真剣に考えなければならない課題と思いました。

そこで1点目、地区安全推進協議会設立地区への支援策について質問いたします。

地区内で何か起きたときに、地区長を中心に活動する地区安全推進連絡協議会（自主防災組織）が11月28日四ツ谷地区にも設立されました。まずは地区民の意識づけ、高揚からとなっておりますが、地区安全推進連絡協議会設立地区への支援策として市側のガイドラインはあるのか。機材購入時の補助はあるのか。また、どんな活動を支援するのか。設立地区が多くなれば市の担当を明確にすべきと考えますが、市長と市民課長に伺います。

2点目、登下校時の通学路の安全確保と対応について。先ごろ長井高校、長井工業高校、長井南中、長井北中の代表の皆さんと大人の代表が生活の安全をテーマに「地域安全安心を語るフリートーキング」が長井市警察署あやめ交番安全協議会主催で行われ、生徒からフラワー長井線の存続や地域の安全について活発な意見が出されました。

中に、自転車で通っている生徒から、道路が暗く、西根、寺泉方面に帰るときにおっかないとの意見が出ました。また、少年議会でも多くの提案の中に伊佐沢に帰る道路が暗く、防犯灯の設置が少ないとの意見が出ました。長井市のまちは暗い、他市の方々からも耳にする言葉です。私も日ごろから感じていることなので、ここで提案させていただきます。

防犯灯のカバーを掃除すればもっと明るくなるところもあります。子供の目線での点検が大事だと思います。

飯豊町では通学路を中心に古い防犯灯を新しいものと取りかえる予算をとり、対応しております。今回の補正予算に172万円計上されまし

たが、さらに地区単位で安心安全のまちづくりの一環として防犯灯の見直し、防犯灯の設置と管理について明確な取り組みが必要なのではないかと感じております。学校でも通学路の安全点検を行い、事故防止に努めるべきと思います。また、冬期間になると、歩道の除雪の安全確保が心配されます。特に歌丸添川線の歩道は風が強く、吹雪や吹きだまりで道路がなくなります。防雪さくの要望が出されておりますが、ことしも設置されません。

防犯灯の対応について市民課長に、通学路の安全チェックに対しては教育長に、冬期間の歩道の安全確保と歌丸地域の防雪さく設置については建設課長に伺います。

次に2項目、子育て支援策の拡充について。

去る10月18日、厚生常任委員会で福岡県宗像市に行ってまいりました。宗像市では乳幼児健康支援一時預かり事業（すくすくくらぶ）という小学3年生までの子供が病気で集団生活が困難であったり、育児できない場合に「一時預かり」を行うもので、保護者の「子育てと就労の両立」を支援した取り組みを行ってまいりました。早い速度で超大型台風23号が九州方面に接近しているときでしたので、19日朝、春日市への視察を取りやめ帰ってきました。

ここで質問いたします。

1点目、今後のはなぞの保育園の保育方針と子育て支援センターの取り組みについて伺います。

12月1日付山形新聞に大きな見出しで保育園を社協に移管、小見出しで長井市が来春行革の一環とあり、新年度から公立保育園の一つを市社会福祉協議会に移管する方針を固めた、行財政改革の一環で、市保育所設置条例の一部改正の議案を12月定例会に提出されている記事で、さらに計画についても詳しく説明されております。

平成12年10月に長井市行財政改革推進委員会

から「長井市行財政改革に関する答申書」を受けての市の行財政改革を推進するためになどの保育園の運営を民間主体の形態に移行することを予定して、移管先が社会福祉法人長井市社会福祉協議会と予定されております。

説明不足から不安を与えているのではないかと受け取れます。社会福祉協議会の中か、福祉事務所の中に総合窓口を設けて、丁寧な説明と今後の保育方針の参考に皆さんから意見を出してもらい推進窓口も設け、これまで以上に充実した取り組みとなるように期待します。

また、子育て支援センターの取り組みも年々充実してきました。ことしの担当者も頑張っております。4月から子育て支援センターだよりを発行し、今月で9号です。先日すみれ学園に出かけてみました。すみれ広場はすみれ学園で開設されていて、午後も開設されています。午前中に子供を連れてきた若いお母さんはいろいろと相談しながら元気に午後からもまた子供を連れてくると言っていました。若いお母さんの子育ての悩みを聞いてもらえる子育て広場の重要性を実感いたしました。

はなぞの保育園は駐車場が狭く、路上駐車をしています。駐車場の確保について、また、はなぞの保育園子育て支援センターの場所がわからない市民もおられます。案内板の設置も移管前に対応してほしいと思います。今後のはなぞの保育園の保育方針、そして子育て支援センターの取り組みについて、市長と福祉事務所に伺います。

次に2点目、絵本の読み聞かせと絵本選びのアドバイスを各健診時に実施を、についてであります。

絵本の読み聞かせは子育てに欠かせない大切なことです。さきの一般質問で赤ちゃんにブックスタート事業の提案をしておりますが、市長からは絵本は親が買って読んであげることが大事との答弁です。ことし4月より4カ月児健診

に図書館より司書の湯沢さんとボランティア2名の方がお手伝いされて、絵本の読み聞かせが実施されておりうれしく思います。けれども、4カ月児健診時に1回だけでは若いお母さんは絵本に関心を持ってないのではないかと思います。9カ月児健診のとき、1歳6カ月児健診のとき、そして3歳児健診のときも絵本の読み聞かせ、絵本選びのアドバイスを続けてほしいと思います。子供に少しでも絵本を読んであげようとか、図書館に行って絵本を借りてみようとか、本屋さんに行って絵本を買って読んであげようとの心が動くと思います。

ことし1月に児童文学作家漆原智良氏を長井市にお迎えし、「感性の種をまきながら」と題して講演をいただきました。本に親しめる環境づくりが大事であることを学びました。

11月27日から29日までタスで世界120カ国の絵本展が開催され、大きなパノラマの絵本に大人も感動し、世界の絵本を手にとってみる事ができました。子供を含め2,000人の人が世界の絵本に触れました。12月8日、タスにて魔女の宅急便シリーズの作者角野栄子氏の読み聞かせとアニメ上映、さらに講演会がありました。東京江戸川区から4年生のときに疎開されたときの思い出も話してくださいました。童話作家、絵本作家で活躍されております。長井親子劇場の皆さんが中心となり、親子で多数出席されておりました。絵本や本に触れる環境づくり、発達に応じた本選び、赤ちゃん時代からの読み聞かせの大切さを若いお母さんに教えてほしいものです。そのきっかけづくりをぜひ健診でお願いいたします。健康課長に伺います。

3点目、市内の学童保育状況と今後の対応について。

市内の学童保育状況はどのような状況か、平野児童センターは来年の1年生の受け入れがどうなるのかと心配した声があります。児童センターが狭くなった場合の対応はどうなるのでし

+

ようか。福祉事務所長に伺います。

最後に介護予防と健康づくりについて。

長井市は寝たきりをつくらぬ福祉のまちづくりを目指しております。ミニデイ事業も10年継続して実施され、それぞれの地区で活発に行われております。公民館内ではどうしても座っている時間が多く、できるだけ手足を動かしてテレビ体操をしたり、カラオケで歌を歌ったり、体を動かして過ごしております。将来介護が必要な状態にならないために、介護を受けている状態を悪化させず、元気に生き生きと生活できるように、普段からの予防が大切となりました。そして、次の危険な老化サインをいち早く発見し予防します。

一つ、自分の身の回りのことをすることがおっくうになった。生活機能低下。

二つ、ちょっとしたことでつまづいて転びやすい。転倒骨折。

三つ、物忘れが激しくなった。痴呆、うつ。

四つ、不意に尿が漏れる。尿失禁。

五つ、食事が単調になった。低栄養。

六つ、外反母趾、爪のトラブルでうまく歩けない。

このような状態がじわじわとあらわれてくるそうです。そこで、介護予防のためのストレッチで、転倒防止、いすを使った筋トレ体操、散歩などのほかに筋力トレーニングで身体機能の向上を図るパワーリハビリステーションが注目されてきました。高齢者の介護予防、自立支援のため考案された機器を使用したトレーニングで筋力低下や老化症候群などの予防を目的としたものです。市の取り組みについて市長に伺います。

以上で、壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 谷口議員のご質問にお答えを申し上げます。

まず安全安心のまちづくりについてでございますが、現在市内には自主防衛組織が32団体ございます。最近、議員がご案内のように、長井市地域安全推進条例、これは13年の3月に議会でご認定をいただいた、市では初めて、44市町村では2番目、舟形町に次いででございますが、この地域安全推進条例を受けまして、地域の安全は地域の力でをスローガンに地域安全推進協議会が清水町を初め、中道、四ツ谷、新町の4地区で相次いで生まれました。これは大変うれしいことであります。活動の目標が災害のときに迅速的確な対応、危険箇所を把握する、そしてそれを改善する、総合的な防災の診断、あるいは声がけづくりなどでありまして、防災や防犯に対して住民みずから高い意識を持って安全な地域づくりを実践されていることに対して心から敬意を表するものであります。そして、こうした取り組みが他地域にもどんどん広がってくることを期待しております。

今、NHKの木曜日の9時15分でしょうか、隣組が一致協力しているような工夫で問題を当たると、何でも行政にお願いさせるというのではなくて、地域でできることは地域でという意識の中から、行政もさらにそれを支援していくというような知恵と活動が全国にも生まれているというのは谷口議員もご承知のとおりであります。地域の中にはご指摘のように、高齢の方や心身に障害をお持ちの方あるいは弱者と言われる方がいらっしゃいます。新潟や福井の水害で多くの尊い命が失われたことはご案内のとおりでありまして、心からお見舞いを申し上げますところではありますが、こういった方々の避難誘導に当たりまして、地域の方々の支援を受けられるということは安心感が一層高まる、そして地域の連帯感が高まるということだと思います。

今、市で行っております防災訓練は長井市全域でありまして、地域は持ち回りですが、少し広域過ぎるのではないかというご意見もいただ

いておりますが、まずは身近な地区単位での防災訓練が行われるとすればこれは大変いいことだと思います。住民一人一人の皆さんの身につきますし、教育にもなるとおもわれます。

ご質問の協議会へのご支援であります。市としましては単に組織を維持するだけの補助金については、これはもう会費等で運営をしていただくということで、他の補助金同様の考えであります。新たに新しく実際の活動を行うことの助成、例えば消防防災訓練時に使用する消火器の消火剤の補充あるいは防災に関するリーダー研修会の受講料等について検討してまいりたいと思います。もっとも消火剤は長井市の施設に設置されているものでありまして、交換の時期になっているものは現物支給することもあるわけありますので、活動支援について少し細かく検討してまいりたいと関係各課で検討を進めたいと思います。

資機材につきましては財団法人自治総合センター内の宝くじ普及広報事業の一環としての自主防災組織育成助成事業がありますので、そちらの方についてもご活用されるようご支援をしていきたいと思っております。この助成事業の詳細と他市の自主防災組織に対する支援状況につきましては、詳細は市民課長から答弁をさせたいと思います。今後とも安全安心のまちづくりにご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

次に、登下校時の歩道除雪と通学路のパトロール強化についてであります。

平成16年度の長井市の道路除雪計画における歩道除雪の延長は38.4キロでありまして、歩道全体の延長の約88%を実施する予定であります。通常の歩道除雪は車道除雪実施に合わせ、早朝3時から始動し、7時30分までに完了するよう計画をしております。特に通学路の除雪につきましては優先的に除雪するよう指導してまいりたいと思います。

防雪さくの設置につきましては、17年度から地吹雪により時々通行不能になる幹線道路、ご指摘の歌丸添川線もそうであります。谷口議員もお生まれになって、あそこの困難さはわかっていると思えますし、私も身にしみて感じておりますので、自分のところですが言いにくいのですがけれども、相当優先度は高いのではないかとこのように思っております。試験的に順次着手を試みたい、そして、この冬期間における通学路の安全確保に努めてまいりたいと思えます。

次に、子育て支援事業の中ではなぞの保育園の保育方針と子育て支援センターの取り組みについてでございます。これは詳細は福祉事務所長から申し上げさせていただきたいと思えますが、昨日からのご答弁のとおり、今後のなぞの保育園の保育方針につきましては、社会福祉協議会にこれまでの長井市の保育方針を継承していただく、さらに民間活力を導入していただく、現状以上にサービスができるように、延長保育であるとかゼロ歳児であるとか、一時保育であるとか、それから休日保育であるとか、いろんな面で新しいメニューも検討して、そういった民間の皆さんがやっただけのサービスをはなぞのでも実施できるように導入を検討し、できるものから即実施をさせていただきたいと思っております。

子育て支援センターはこれまでの事業をさらに発展するようにいろんなメニュー等も考えていきたいと思っております。なお、申し上げましたように、詳細は福祉事務所長から申し上げます。

3番目の介護予防と健康づくりについての筋力トレーニング、そして身体機能の向上をというお話であります。ご案内のように、ミニデイサービスでは健康教室をやっておりまして、健康づくりや介護予防にみずから取り組んでいただくために玄米ダンベル体操、それからボール

+

で生き生き貯筋体操、レクリエーションダンスなどを楽しみながら実践していただいております。今後もより多くの市民の皆様方に取り組んでいただけるように、また活動的な生活リズムを維持しながら元気で生き生きと生きがいのある人生を送っていただきたいというふうに考えておまして、例えば介護保険におきましては、低度の要介護者が介護サービスを受けることにより重度化する傾向もあると言われておりますので、こういったことがないように、現在、厚生労働省で介護予防のあり方について見直しが行われております。

具体的には現在の老人保健事業、介護予防地域支え合い事業及び在宅介護支援センター事業等を見直して、効果的な介護予防サービスを提供するため、地域支援事業の一環として平成18年度を目途に創設をする活動的な高齢者や虚弱高齢者の皆様を対象にして、転倒予防、筋肉トレーニング、食生活改善事業などに取り組んでいきたいと思っております。

谷口議員からもご質問がございました筋肉トレーニングによる身体機能の向上につきましては、高齢者一人一人の状態に合った介護予防プランの中で実践をしていただきたい、そのプランの中で実践をしていただくことを今検討中でございます。なるべく早くこれは実践をできるようにしたいと。できれば17年の4月からは予算の配慮もしていきたいというふうに思っております。今後も介護が必要な状態にならないようにという老人福祉連合会、老人会ですか、介護保険の面倒にならないように元気であるんだと、PPKだと言われる老人クラブの皆さんや多くの市民の皆さんと協力をしながら、心身の健康づくりと介護予防に努めてまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解とご支援、ご協力をお願いを申し上げます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 ご質問にお答えをします。通学路の安全、特に防犯灯の増設、冬期間の歩道の確保については毎年各小・中学校のPTAの方から要望が出されています。今年度は民生委員・児童委員との懇談会とか少年議会の折にも要望として出されました。私の方からは通学路の安全対策に関する各学校の取り組みと教育委員会の対応についてお答えをします。

市内各小・中学校では年2回から4回、多いところでは数回というところもあるようですが、通学路の安全点検を行っています。その方法としては教職員だけだったり、またはPTAとか議員ご指摘のように子供の目線でということで通学班の子供たちと一緒にだったり、あわせて登校指導または下校指導、あいさつ運動を行うというように、それぞれの学校が工夫をしているようです。

点検の結果、危険箇所についてはほとんどの小学校が危険マップをつくり、学校だよりとかプリントで各家庭に知らせたり、学年ごと、または通学班ごと、児童・生徒にも対応の仕方を具体的に指導している状況です。

改善が必要な箇所については地区長さん、民生委員の方、警察、駐在所、関係各課に連絡をして対応をしてもらっているということです。

教育委員会としましては、登下校の安全指導または通学路の安全点検を充実するように年数回通知を出しています。校長会、教頭会の折にも指導をしているところです。特に冬期間の通学路については、さっき市長の方からの答弁にもありましたけれども、市建設課と係をとりながら子供たちの通学時間に間に合うよう、優先的に除雪を行っていただいているところですし、管理課としても冬期間の通学路のチェックをしていく予定です。

今後も市民課、建設課、学校、PTAと連携をとりながら児童生徒の安全管理には万全を期していきたいというふうに考えています。

以上です。

鈴木良雄議長 小泉良一市民課長。

小泉良一市民課長 谷口議員に対しましてお答えを申し上げたいと思います。

安全安心のまちづくり協議会に対する支援策に関する市のガイドラインということですが、現在はございませんが、考え方とすれば自主防災組織に対しましての助成要項というふうな形になるかというふうに思います。内容につきましては市長からお話がありましたように、運営費ということではなく、実際の活動を行うことへの助成ということを考えているところであります。このことにつきましては予算編成ということもございますので、予算編成の中で検討をしてみたいというふうに思います。

それから、宝くじの普及広報事業の一環としての自主防災組織育成支援事業でございますが、これは事業主体が自治会あるいは町内会のコミュニティ組織等が対象でございます。情報連絡用の携帯無線機であるとか、消火用の動力ポンプ、消火器、水防用の救命ボート、防水シート、避難用の発電機、ライトなど、資機材を整備することに対する助成でございます。今年度は清水町地区で要望中でございます。助成金としては大体30万から200万というふうな間になっているようでございます。それから、自主防災組織という形での県内の状況であります。山形市でも制度をつくっているようでございます。宝くじの助成と同じような中身で資機材の整備ということで1回限りということでございます。活動費はないようです。

飯豊町では自主防災組織の運営補助金として設立時5万円限度あるいは運営費に毎年2万円限度というふうな形があるかなというふうになっているようです。そのほか、全国的にも支援の状況はありますが、防災訓練時に規模などに応じて1万5,000円から3万5,000円程度の補助をしているところが多いようでございます。

それから、登下校時の通学路の安全確保の対応について、防犯灯にかかわる部分のお話をさせていただきます。

少年議会で伊佐沢地区北斗の小関さん、長井高校植木さんから防犯灯が少なく暗いために帰りが心細いというふうなお話があって、増設の要望が出されておりました。防犯灯につきましては原則として道路の交差点やカーブのあるところ、あるいは直線道路でも電柱1本置きぐらいに設置しているのが状況でございます。新設予算は毎年100万円前後でございまして、地域の要望やPTA連合会の要望により設置をいたしております。子供たちの切実な願いでございますので、要望でございますから年次計画を立てて設置をし、安心して登校できるような明るい環境というふうに努めてまいりたいと思っております。

また、灯具が汚れていて、蛍光灯が暗いというふうな苦情などについては、要請により修繕費で交換をしているところでありますが、不点修理のときに灯具については清掃をしてくれというふうなことで業者の方には指示をしているところであります。この12月議会に補正予算172万円を修繕費として上げているところでございまして、通常が大体400万円から450万円程度でございまして、今年度補正予算が通れば522万円というようなこととなります。そんなことで措置をしているところでございます。汚い箇所全部とはまいりませんけれども、その都度手をかけてまいりたいと思っておりますのでご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

鈴木良雄議長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 谷口議員のご質問にお答え申し上げます。私の質問については、冬期間の歩道除雪と防雪さくの設置についてだと思しますので、お答え申し上げます。

歩道除雪につきましては、先ほど市長からも

お話がありましたのですが、車道除雪にあわせて出勤し、通学時間となる7時30分までに完了するよう指導していますが、朝方の降雪や吹雪などについては通学時間に間に合わないときがございます。早朝に除雪した、完了した路線についても吹きだまりなどでまたたまってしまうというようなことがございます。2回目と申しますか、再出勤するなどで対応してまいりたいというふうに思いますので、その辺はご理解をお願いしたいというふうに思います。

ことしは除雪受託業者で組織しております除雪業務連絡協議会のご協力を得まして、パトロールを強化したいというふうに思っております。情報を共有しながら、特に通学路に指定された歩道除雪に対応してまいりたいというふうに思っております。

それから、防雪さく設置でございますが、市道に設置されております防雪さくは補助事業としまして谷地高堰線、これは長井北中の前の道路であります。780メートルほど設置していますが、その後の設置については財政再建のため休止しているところであります。今後の設置につきましては標準規格、これは補助事業で認められた規格であります。大変防雪さくの施工費が高いために補助事業として設置するほかはなかなか単独事業では厳しいというふうに思っております。

そこで、もう少し安い簡易な規格構造の防雪さくを設置する方向で現在検討しております。

谷口議員が指摘されました市道歌丸添川線は今までも強烈な地吹雪でたびたび通行が不能になる路線であります。平成6年度の地吹雪でありまして、歌丸添川線や中街道線については非常に厳しい路線道路であったというふうに記憶しております。さらに歌丸地区の児童にとっても唯一の通学路でありますから、なるべく早期に設置したいというふうに思っております。

以上です。

鈴木良雄議長 船山祐子健康課長。

船山祐子健康課長 では、ご質問にお答え申し上げます。

絵本の読み聞かせと絵本選びのアドバイスにつきましてはことしの4月から比較的健診内容が少なく、時間的余裕のある4カ月健診で行っております。実際に1対1で絵本を乳児に見せて語りかけ、保護者にはゼロ歳児からのリストということで手渡しをしながらアドバイスしております。赤ちゃんは絵本をじっと目で追ったり、手足を動かしてさわろうとしたり、中には笑ったりというんな反応を示しております。そんな我が子を見て、若いお母さん方も驚き、とても喜んでいる様子が伺っております。また、この読み聞かせで初めて絵本に触れたという方が多くて、もう4カ月児でこんな反応があるのかなということを新発見のように感心している様子も伺っております。

議員ご質問の件につきましては、4カ月健診以外の健診、各健診は内容自体が盛りだくさんになっておりまして、時間的余裕も少なく、難しい状況ではございます。また、現在の協力いただいているボランティアの方なのですが、4名しかおりません。そういうことでスタッフ不足ということも問題もございませぬけれども、議員おっしゃられたように、4カ月健診の感動を継続するためには必要かなと思っておりますので、まず協力いただけるボランティアの方をさらに公募いたしまして、スタッフがそろった上で健診のやり方等を工夫いたしまして、実施する方向で検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

鈴木良雄議長 宇津木正紀福祉事務所長。

宇津木正紀福祉事務所長 私の方から2番目の子育て支援策の充実についての(1)の今後のはなぞの保育園の保育方針と子育て支援センターの取り組みについてと、3番目の(3)の市

内の学童保育状況と今後の対応について、特に平野児童センターの方でお答えいたしたいと思っています。

最初にはなぞの保育園であります。これまではなぞの保育園の保育方針が急変いたしますと、保護者の方が不安が生じてまいります。社会福祉協議会には当面今の市の保育方針、はなぞの保育園の目標も同様なんです。そちらの方針を継承していただきまして、保育所運営に当たっていただくようお願いしているところであります。また、具体的には保育時間、それから給食の内容、それから人的配置、細かく言いますといろんな運動会などの行事についてもこれまで同様サービスの提供、質が落ちないように提供してもらおうようにしてまいりたいと思っています。

2番目の子育て支援センターの取り組みについてでございますが、民生委員・児童委員さんとの市長、教育長の懇談会のところでも子育て支援センター、議員同様大変よくなったというお褒めをいただいた一方、今後もさらに充実させるようにというふうなことで、例えばですが、専用の窓口、相談窓口を移動するものですから、出前保育なんかしていますので、担当者がはなぞの電話番号ですぐ出られないと、お母さん方は悩みを持っているからすぐ対応できるようなことを考慮していただけないかというふうなご要望がありました。今、料金の安いPHSとか携帯とか、そういうものがあるようございますので、そちらの方で何とかならないかというふうなことで、若いお母さん方の相談に対応できるような形でできないものかということで検討しているところでございます。

3番目の学童保育の状況でございますが、現在月5,000円で下校時から午後6時まで、休業時は8時半から午後6時までということで学童クラブの方の事業を市が直接職員を雇用して直営でやっております。

さて、平野児童センターでございますが、平成14年度から事業を開設しております。12名のときの状況であります。小学校1年生が7名、小学校2年生が1名、小学校3年生が3名、小学校4年生が1名という状況で、このままことしの1年生のように希望が多ければ場所にも限界がありますので、狭さを感じる事があれば、開設当初、平成14年度でございますが、最初は平野小学校の1階をお借りして教育委員会と打ち合わせの上学童が始まったというふうに聞いております。その後、平野小学校の方に障害児の入学があるということで、内部の改修が必要だということで児童センターに移った経過があります。学童クラブの方に入りたいという保護者の方の希望が多ければ教育委員会と協議しながら、今の平野児童センターの狭隘なところでは限界かなというふうに感じておりますので、またさきの父母の会、連絡協議会の研修会でもやはり教室が三つしかないところで廊下を本棚で仕切っているだけのものがございますので、在園児との関係が、小学生は大きいものですから、在園児がちょっと圧迫感を感じるということで、親の方からも要望がありますので、そちらの方も保護者の方の不安のないように今のままでもパーティションをすとか、そういうことを検討しながらどこまで引き受けられるかということも考えまして対応させていただきたいと思っております。

以上でございます。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ただいまの詳しいご答弁本当にありがとうございます。

市長にですけれども、今回の中越地震で阪神大震災を教訓として設置された人と防災未来センターというのが神戸市の中央区にできております。ここでは全国には1万前後の活断層があるのではないかとされており、活断層の存在は日ごろ余り意識せずに、身近な備えをすること

が大事だということで、まずシルバー人材センターを活用して家具を固定したり、冷蔵庫に日持ちのする食料品を備えたりしてはどうかとか、阪神大震災の場合、避難所に逃げてきた人のピークが被災から1週間後だった、自宅に食べ物が尽き、食料を求めて多くの住民が避難所に押し寄せてきたために、災害救助法に基づいて400万円の国費で4,000万食の弁当を供給したということになっております。

各世帯が食料を半分にストックしておけば、残りが不要になる。ペットボトルをカートンや箱で購入し、半分消費したら補充するような工夫も立派な備蓄だ、車は燃料が半分以下になったら給油することを勧めたい、いざというときにはミニ避難所になる車だということで、燃料が半分になったら給油するように勧めたい、一人一人がちょっとしたことを心がけると、災害に強い地域になると行政の負担が軽減されてほかのことができるようになるという、これは新聞の切り抜きなんですけれども出ております。やはりこのような知恵をそれぞれできている自主防災組織の中でやはり指導者の立場になる防災センター所長さんとか、市民課長さんたちが指導に来られて、そのようなことも話していただいたら安心しながら何をやればいいのかなということで、一つ一つ取り組むものが見えてくると思うんですけれども、その点について、市長のお考えをお願いいたします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 今、谷口議員が言われたことが全くそのとおりだと思います。起きてしまったからは最大の支援なんですありますが、起きた直後というのはやっぱり各家庭個人がどれぐらいやっぱり家具が転倒しないように、あるいは少しの、二、三日の食べ物を持っているとか、水は持っているとか、車もガス欠のものじゃない、給油のちゃんとしているものを持っているかというようなことが非常にやっぱり重大だ

ということはこの神戸の都市防災未来センターが教えているんだと思います。そういうことがもう人ごとではなくて、自分のことなんだと、もう自分自身が一人ずつやっぱりやらなければいけないことなんだと、そう自覚をし、ある程度のマニュアルを持ち、それが実行できるようにやっぱりリーダーを派遣して、そのリーダーが持ち帰って、また今度は地域の自主防災組織で実践をするというようなことがこれから大切なのではないかとこのように思います。したがって、ご指摘のように私もご支援の方法については資機材等はいろいろな全国のあれにも活用しながらであります、リーダー研修等も大変重要なことだと思いますので、ご指摘の点についてしっかりと検討してご支援できるところはご支援していきたいというふうに思います。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 先ほど健康課長からご答弁いただきました各健診時の読み聞かせ、4カ月児だけでなく対応していただける方法だということでしたけれども、やはり今読み聞かせの対応というか、たくさんの方の関心事ですので、図書館かどこかにお願いすれば、すぐそういう読み聞かせのメンバーというか、ボランティアのメンバーが対応していただける。今図書館で長井工業高校生が第4週の土曜日になさっていらっしゃるようです。やはり先ほどありましたように、公募をしてということですが、NPO方式とか新しいほかの地域での活動を参考にして取り組んでいただきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いをいたします。健康課長の方ですけれども。

鈴木良雄議長 船山祐子健康課長。

船山祐子健康課長 それでは、今議員のおっしゃられたようにNPO法人とかいろいろ勉強しまして、取り組みの方を検討してまいりたいと思います。

以上です。